

# 税金から社会を考える

遊佐町立藤岡小学校教諭 6学年 大塚 優  
 実施年月日：平成29年1月24日～31日 8名

## 1 実践計画・指導のねらい

本単元で子ども達に考えさせたいことは、以下の3点である、1つ目は、国民には「納税の義務」があるということである。義務だから納めなければいけないという指導では、単なる理念の押しつけとなる。具体的な例をもとに「税金はなぜ必要なのか」について、考えを深めさせていきたい。2つ目は、よりよい暮らしの実現と財政の関わりについてである。デンマーク等の社会保障にふれ、「どのようなくらしが望ましいか」考えさせていきたい。3つ目は、国の歳入や歳出には、国民の望みや国の方向性などが反映されており、「税金を払う国民として、どう政治にかかわっていくのか」考えさせていきたい。

## 2 単元構成・実際の指導状況 (単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導)

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・外国の社会保障制度を参考にしながら、税金の働きについて考える。 	○ 日本は国民が幸せを感じられる国なのだろうか。 ● 物が豊かで、生活に困らない幸せな国。 ※「世界幸福度ランキング2016」配布。日本は50位台。上位の国は、医療費無料、教育費無料などの高福祉国家。 ○ A君が、カナダのバンクーバーに旅行に行ったら、夜腹痛がひどくなりました。どうしますか。 ● バンクーバーは医療費無料なので、救急車を呼んで医者に行く。 ※「世界の救急医療事情」配布。旅行者には、法外な医療費が請求される。 ○ ○どうして、こんなことが起こるのだろう。 ● 旅行者はその国に住んでない。カナダにお金を納めていない。 □使用教材名 ・国際連合持続可能開発ソリューション「世界幸福度報告」 ・KID 外務省HP「世界の消費税 (付加価値税)」 ・トリップアドバイザーHP「世界の救急医療事情」
2	・身の回りの生活を振り返り、税金とくらしの結びつきについて考える	○ この絵の中で、どこに税金が使われていますか。 ● 大きく分けると「施設」「働く人」「サービス」 □使用教材名 ・小学校3、4年社会科教科書P2、3の絵 ・租税教育用ビデオ「マリンとヤマト」
3	・国の歳入、歳出に関する資料を読み、消費税のあり方を考える。 	※国の歳入、歳出に関する資料を提示。 ○気づいたことはありませんか。 ●国の借金が多い。●利子だけですごい金額になっている。 ●消費税が社会保障の予算よりもずっと少ない。 ○ 消費税は何パーセントだとよいと思いますか。 ●デンマークなみに25%にして、社会保障を充実したい。 ●税金の大切さはわかるが、生活が苦しくなるので8%でよい。 □使用教材名 ・財務省「平成28年度予算 (日本の財政関係資料)」
4	・学習したことをもとに、税金の大切さをポスターに書きまとめる。 	○ ○税金の大切さをポスターにしてまとめよう

**【指導のポイント】<1時間目>**  
 子ども達は、今の自分たちのくらしに満足感を得ている。欧米の社会保障の充実した国の様子を知り、税金の働きに目を向けさせる。



**【指導のポイント】<2時間目>**  
 黒板に「小学校3、4年社会科教科書P2、3」の絵を拡大して提示する。子どもたちが気づいたところをマジックで塗っていく。税金がなくなったら、くらしが成り立たなくなることを視覚的にとらえていく。

**【指導のポイント】<3時間目>**  
 国の借金は1000兆円を越えていて、国民一人あたりの借金も1000万円を越えている。特に社会保障費が膨大に増え続けている。この事実を理解し、子どもたちにとって、身近な税金である消費税の在り方を話し合わせる。

## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ お金は子どもたちにとって身近なものであり、興味、関心を持ちやすい。税金を考えることで、政治や世の中の動きについて考えさせることができた。
- ◎ 「世界の救急医療事情」「平成28年度予算 (日本の財政関係資料)」などの資料は、子どもにとって考えやすく、授業展開を工夫しやすい資料だった。1枚の資料から、たくさんの事実を読み取り、その背景を考えることができた。資料活用や社会的思考力を養うことができた。
- ◆ 子どもたちは、税金の重要さを理解し、集めた税金をどう使うか考えることが大事だと思っている。しかし“わかる”と“できる”には大きな違いがある。これからも身近な教材をもとに、公民的資質の育成に努めていきたい。